

週刊「観光経済新聞」創刊70周年記念
論文コンテストの入賞作品を、本号から
順次掲載します。

創刊70周年論文コンテスト最優秀賞(観光庁長官賞)

1業務にのり出されたいことを願う。学芸員と観光コーディネーターが結びつければ、化学反応を起こし、α世代への新たな観光をリードできると思う。7日の目をみながった私の妄想ツアー。最後に、自分が直接関わった考古学分野で、講義して反響があったが、観光の目玉にしたり、観光土産に結びつこうとしたらしたにもかかわらず、力不足で断念した企画を紹介しておこう。他の博物館でも同様でそれ以上のユニークな企画がたまたまある。ぜひ知ってほしいと思う。社会教育の立場では、雇用拡大につながる企画や利益を生み出すための企画はなかなか理解が得られない。ぜひ、観光業との新しいタイアップで地方にある公立の博物館にも風穴が開くことを願っている。

1 はじめに
旅行・宿泊・飲食・運輸・製造など
でまとまった力を持つ観光業は、これ
まで人間の余暇活動を進化させてきた
。風光明媚な自然・歴史を感じさせた
史跡等人が行きたがる場所や食処を
巡る観光から、体験型観光、そして最
近のインバウンド観光や受け入れる側
が企画する着地型観光など、その時代
に応じて観光の魅力を作り上げてき
た。

デジタル化が進む中、奇しくもコ
ロナウイルス騒動で働き方、働く場所が
変わり、三密を避ける日常活動が始ま
り、旅行がしづらくなった。観光産
業にとって大きく舵を切るチャンスが
訪れた。
そこで、観光とは縁遠いと思われ
ている博物館が、次世代の観光に魅力
をもたせたい。これからは、微力ながら観光と絡めながら教育普及
に努めた元学芸員の立場から提案した
い。

博物館とは、「歴史・芸術・民俗・
産業、自然科学等に関する資料を収集
し、(保存)育成し、展示して教育的
配慮の下に一般公衆の利用に供し、そ
の教育、調査研究、レクリエーション
等に資するため必要な事業を行う」
ものである(博物館法第二条)。
筆者が所属した頃の県総合博物館
は、考古分野が独立して単館に移行す
る時にあった。国の補助金の関係で大
規模な体験施設が先行して建設され、
運営が開始された。そのため筆者が体
験施設の学芸員として赴任した。先に
述べた博物館の業務中の「教育普及及
び特化する」のユニークな「教育
普及を専門にする学芸員」となった。
である。欧米では明確な位置づけがな
されている「ミュージアムエデュケー
ター」に相当する。しかし、残念なこ
とに考古博物館本体が出来上がってし
まうと、「教育普及を専門にする学芸
員」は一般の「学芸員」に吸収されて
しまった。このことは、博物館の教育
普及活動が観光や地域創生を密接にか
かわらなくてはならない可能性を感じ
た身としては、やり残し感が大きかつ
たのである。ここでは、観光業と博物
館との関係について、観光業と博物
館とがウィンウィンの関係になって観
光市場に活性化をもたらす提案をして
みたい。

2 地方にある博物館の現状
博物館と言っても種類が多い。一般
的には教育委員会に登録された「登録
博物館」と指定された「博物館相当施
設」に「登録」も指定も受けていない
「博物館類似施設」を合わせて博物
館と呼ばれている。動物園や水族館
植物園も博物館である。例えば大英
博物館の場合、2019年の入館者数は
6,239,000人(ALEVAリーディング・ヒンター・アトラク
ション協会)発表で、年間5日
休館日を差し引き単純計算して一日平
均17,333人の入館者数があるこ
とになる。

日本でも、特別企画の内容によっ
ては一日当たりの入館者数が非常に高
い博物館があり、美術館に多い。展覧
期間は1ヶ月から数ヶ月までと条件は異
なるが、一日平均入館者数が多かった
のは、例えば、2018年度に開催され
た東京国立博物館の「正倉院の世界」
展(9,786人)、「国宝東洋」展
(7,484人)や東京都美術館の
「ムンク展」(8,931人)、クリ
ムド展(7,915人)などである。
人口の多い地域で開催されている、予
算規模の小さな地方の博物館では、な
かなか開催できない豊富なコレクション
が並ぶ。地方からの鑑賞者が組
まれるくらいの人気である。

下表は、入館
者数の多い上記
の博物館も含め
た入館者数の
平均値である。
一館当たりの入
館者数を見る
と総合博物館・
美術館博物館・
歴史系博物館で
は非常に少な
い。これらの多
くが地方に設置
されている。
全国博物館協
会が平成29年
に発表した博物
館調査による、
4,096館
中、回答2,2
58館の調査結
果でも、年間
5,000人未
満の博物館が
全体の4分の1
を占めている。
このことは、ホ
ジティブに見る
と大部分の博物
館にまだまだ伸
びしろがあるこ
とを言える。

博物館及び博物館類似施設の数(H30年)及び入館者数(H29年度)

種類別博物館数	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館
種類別博物館数	154	104	470	453	16	34	11	6	38
入館者数(千人)	21,815	36,601	88,165	60,310	5,770	33,951	18,100	6,383	31,973
1館当たりの入館者数	141.7	351.9	187.6	133.1	360.6	998.6	1645.5	1063.8	841.4
順位	8	6	9	9	3	2	2	4	4

平成30年度社会教育調査(文部科学省)より作成

観光産業への提言 α世代の観光への提言 ～観光と地方の博物館を結びつける～

吉岡 けい子氏



【筆者略歴】1980年3月明治大学中野校理学科卒業。1981年4月2011年3月宮崎県教育委員会・宮崎県立中学校教諭、台北日本人学校教諭、宮崎県総合博物館学芸員、宮崎県立西都原考古博物館学芸員、宮崎県文化課文化財課主査、宮崎県立小学校教諭。2011年3月早期退職。同年4月任意団体Moving Waves設立。www.movingwaves.com。

【筆者略歴】1980年3月明治大学中野校理学科卒業。1981年4月2011年3月宮崎県教育委員会・宮崎県立中学校教諭、台北日本人学校教諭、宮崎県総合博物館学芸員、宮崎県立西都原考古博物館学芸員、宮崎県文化課文化財課主査、宮崎県立小学校教諭。2011年3月早期退職。同年4月任意団体Moving Waves設立。www.movingwaves.com。

【筆者略歴】1980年3月明治大学中野校理学科卒業。1981年4月2011年3月宮崎県教育委員会・宮崎県立中学校教諭、台北日本人学校教諭、宮崎県総合博物館学芸員、宮崎県立西都原考古博物館学芸員、宮崎県文化課文化財課主査、宮崎県立小学校教諭。2011年3月早期退職。同年4月任意団体Moving Waves設立。www.movingwaves.com。

【筆者略歴】1980年3月明治大学中野校理学科卒業。1981年4月2011年3月宮崎県教育委員会・宮崎県立中学校教諭、台北日本人学校教諭、宮崎県総合博物館学芸員、宮崎県立西都原考古博物館学芸員、宮崎県文化課文化財課主査、宮崎県立小学校教諭。2011年3月早期退職。同年4月任意団体Moving Waves設立。www.movingwaves.com。

かけるより、プライベートな空間を好
み、実際にどこか出かけることは、
日常に大きな変化をもたらす一大イ
ベントとなる。そういう意味では、リア
ルを体験できるこれまでのような旅
を親しむ時代は、多岐にわたるα世
代と呼ぶ。彼らが成人する2050年
代以降の観光業は、新たなスタイルと
の戦いを想定して、必要以上の人の
接触を避けながら、多様化・深化した
ニーズに応えなければならなくなるで
あろう。進化と同時に歴史・復古の機
運も高まるので、過去・観光・ター
ン

かけるより、プライベートな空間を好
み、実際にどこか出かけることは、
日常に大きな変化をもたらす一大イ
ベントとなる。そういう意味では、リア
ルを体験できるこれまでのような旅
を親しむ時代は、多岐にわたるα世
代と呼ぶ。彼らが成人する2050年
代以降の観光業は、新たなスタイルと
の戦いを想定して、必要以上の人の
接触を避けながら、多様化・深化した
ニーズに応えなければならなくなるで
あろう。進化と同時に歴史・復古の機
運も高まるので、過去・観光・ター
ン

かけるより、プライベートな空間を好
み、実際にどこか出かけることは、
日常に大きな変化をもたらす一大イ
ベントとなる。そういう意味では、リア
ルを体験できるこれまでのような旅
を親しむ時代は、多岐にわたるα世
代と呼ぶ。彼らが成人する2050年
代以降の観光業は、新たなスタイルと
の戦いを想定して、必要以上の人の
接触を避けながら、多様化・深化した
ニーズに応えなければならなくなるで
あろう。進化と同時に歴史・復古の機
運も高まるので、過去・観光・ター
ン

かけるより、プライベートな空間を好
み、実際にどこか出かけることは、
日常に大きな変化をもたらす一大イ
ベントとなる。そういう意味では、リア
ルを体験できるこれまでのような旅
を親しむ時代は、多岐にわたるα世
代と呼ぶ。彼らが成人する2050年
代以降の観光業は、新たなスタイルと
の戦いを想定して、必要以上の人の
接触を避けながら、多様化・深化した
ニーズに応えなければならなくなるで
あろう。進化と同時に歴史・復古の機
運も高まるので、過去・観光・ター
ン